

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社 山秀 マミー・ケア・サポート グループホーム
(ユニット名)	2階、3階
所在地 (県・市町村名)	静岡県葵区新伝馬1丁目10番50号
記入者名 (管理者)	能見 富佐代
記入日	平成 20年 10月 28日

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の生活の場であることを大切に考え、法人の理念とは別にグループホーム独自の理念を掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲げ、毎回ではないが、職員会議の冒頭、管理者・職員で、理念を唱和し、周知の取り組みをしている	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を大切に、利用者一人一人にあった日々ゆったりした生活が出来るよう外出も、利用者の心理、身体状態に合わせて支援し、家族への理解も得られることに努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員と共に、利用者が日々、近所を散歩する折に、近隣の行きかう人と挨拶を交わす中で、徐々に利用者にも、自分の家の周りとして、なじみの感じが得られつつあることが感じられる。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会へ加入しており、町内の行事への参加、ボランティアや、夏休みの学生の体験学習の受け入れを行い、家族や、地域の理解が得られるための取り組みをしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者の入退所に伴うグループ内での環境の変化などがあり、グループ内の落ち着き、平安を維持し、利用者の日々の生活の充実を最重点におく。現在の介護保険法による人員配置ではそこまでは不可能。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員で評価内容の確認、サービス内容、それに伴う記録方法、記録の確認方法、書式の作成など、職員自らが気がつき、改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年からの大きな進展はないものの、家族代表、自治会長、ホーム関係者、職員で3ヶ月に1回の会議を開催している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの指導の下、必要に応じ連絡を取りながら質の向上に取り組んでいる		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内の職員が虐待防止法の研修会に参加し、必要とする人の見極めができる目と感覚を養うこと、支援方法を活用できるようになることを目標としている。地域包括の支援を仰ぎながらの実例も参考にし、伝達研修が行われているが、現在該当者はいない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の職員が権利擁護についての研修会に参加し、必要とする人の見極めができる目と感覚を養うこと、支援方法を活用できるようになっている。地域包括の支援を仰ぎながらの実例も参考にし、伝達研修が行われているが、現在該当者はいない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、重要事項の説明、看取りの方針などに関しては、ゆとりのある説明時間の確保を図り、納得、十分な理解が得られるまでの説明をしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	発意の弱い利用者からは利用者の示す様子、態度などから判断し、それを運営に反映させているが、外部者へ表せる機会は設けられていない。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	通常は郵送で定期的に利用者の生活の様子、健康状態、金銭管理報告が行われているが、職員の異動等は報告していない。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満、意見を、苦情を外部者へ表せる仕組みはまだできていない。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が運営に関する職員の意見、提案を書面で集約、把握、検討する仕組みはできていないが、自己評価の書面の中から意見だけは知ることができる。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の希望は随時受け付けていて、それに対応する職員体制も調整できている。緊急な要望に対しても可能な限り対応しているが、より利用者の生活の側に立ったサービス提供と介護保険での収入の限界で苦慮している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代、異動についてはそれぞれの利用者と職員の間を大切に考え、口頭、書面にてエピソードなども添えて引継ぎを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員が早期に計画担当責任者、その他の資格が取得できるように積極的に研修への参加を進め、実施に至っている。トレーニングオブジョブもすすみ効果を挙げている。育成への中長期計画はこれからの課題である。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はネットワーク作り、スキルアップとサービスの質の向上を目指して、職員が同業者との交換研修を持つ機会を設定し実施している。また、計画的、定期的に行われるにまでは至っていない。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は、職務中の職員間の意思疎通を大切に考え、職員との定期的個別面談、随時申し出の対応を行って悩みの抱え込みをしない配慮をしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の自己評価が実施され、内容の検討、確認、評価を行い、次の目標設定につなげる仕組みを作成中。管理者は必要な助言を行い、個々の職員の意識の向上、サービスの質の向上につながる支援をしている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の発意能力によるが、本人の要望、不安材料の確認に努め、困難な時は、家族の代弁も聴取している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族から要望、不安材料を詳細に聴取し、傾聴を通して家族の思いの理解者となる努力をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から要望、不安材料を詳細に聴取し、身体、精神的事情による行動面などで対応不可能な場合は他のサービスへつなげる対応もしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族の不安の除去のため、契約前に2、3日試しの入居生活の機会を設け、正式入居後は特に、本人が環境になれるまでは不安に陥らないよう細心の配慮をし、徐々に本人の居場所の確保と、本人らしい生活を送れるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者への支援の中に、入所時には見られない感情の豊かな表出や、はっきり聞き取れる言語の発生、利用者からのねぎらいの言葉掛けを受ける、自発的行動による作業への参加などにより支援者が元気付けられる場面が見られる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日ごろから、ご家族との連絡は密に行い、ご家族の参加を促す行事も計画し、単に面会のみにならないで、職員も交えた交流の場を用意している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所時に本人とご家族の関係をできるだけ聴取し、入所後、職員が来訪時に本人、ご家族との様子などからも関係を理解する努力をし、ご家族の事情にも配慮しつつ、ご本人の側に立った支援を心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のなじみの場所や、人間関係を維持するためには家族の支援が欠かせないものになっているため、家族へ家族との外出をはたらきかけ、職員との外出時にも機会を捉えて可能であれば立ち寄るなどの支援をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入所期間が長くなってくると両者同士の人間関係が形成され相互理解が進み、自然発生的に役割もできつつある。職員は本人の負担にならないような配慮をしながら見守りを継続している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所事由によりすべてとはいえないが、契約修了者との関係を大切に、心配な家族に対しては連絡をとることもある。家族の求めに応じ支援もするつもりでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念を基に本人、入所時は面談と書面にて家族の意向をの把握に努め、入所後は利用者の様子を観察しながら、ご家族の訪問時にはご家族の目からご覧いただいた意向との相違について聴取し、把握する努力をしている。（記録は介護日誌、面談記録に記載）		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人ご家族からなるべく多くの情報いただけるように努めている。また日常生活中に本人から知りえた内容も情報として職員間でも共有できるように記録として追加し、本人との話題を豊富にすること、回想法として用いるなど活用している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	身体状況は毎朝のバイタルチェックを記録し、生活は介護日誌に記録。本人からの情報が、報告が得られにくいことを考慮し、特に行動の変化などは職員間での情報の共有、引継ぎは口頭、書面の両方でおこなっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントは詳細に入手し、本人の日々の生活、身体状況にあわせ、課題とケアについて、家族の要望も取り入れながら、職員間で意見交換し、介護計画に反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の日々の生活、身体状況の変化にあわせ、課題とケアについて、家族の要望も取り入れながら、職員間で意見交換し、介護計画に反映している。本人の状況に変化が見られるときは、同様の方法で変更作成をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に基づく実践、工夫や気づき、情報を記録し、モニタリング結果を基に職員間での情報の共有化に努め、どの職員も気軽に自分の意見、気づきが発意でき、柔軟に対応できる職場の雰囲気、環境を整え、介護計画に活かしている。		
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービス、ヘルパー事業所を併設しているため、デイサービス利用者と共にボランティアとの交流イベントへの参加、希望があれば介護保険外での個人的支援も受けやすい環境が整えられている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の希望にあわせ、デイサービスへ訪問するボランティアとの交流に参加、福祉事業や公民館主催の音楽会などへの参加を支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向により、併設のデイサービスへの参加もあり、利用者同士の交流の機会を持つことを支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて権利擁護や総合的ケアマネジメント等の支援を包括支援センターと共同するつもりはあるが当面の該当者がいない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を希望する利用者にはその支援を行い、そのほかは、週2回定期訪問診療により利用者の健康管理を図っている。オーナーが歯科医のため口腔内の管理は即対応ができています。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	マニュアルが設置され研修が行われている。個人情報情報は職員以外入室できない環境で保管し、個人記録等施錠が必要な内容は鍵のかかるロッカーへ収納。一人でのいられる時間がついても自由が保たれ、高齢者に対しての言葉遣い等にも礼を尽くしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員との人間関係の中で利用者からの遠慮のない希望が聞ける環境の整備に努めている。意思表示の弱い利用者さんの自己決定には職員のスキルを上げることで対応。意思を汲み取る努力をしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念道理、利用者は思い思いの時間の過ごし方をし、職員は見守り、声かけ、退屈そうな時には誘いかけて一緒に時を過ごす支援をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族の支援を得られない利用者には本人の希望により事業者側で支援している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付けは、利用者の意思を尊重しながら、残存機能を生かして、役に立っている気持ちを大切にしている。食事時間は職員も同席し楽しみながら、さりげない介助と利用者の食事状況の観察をしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の個別の嗜好、飲食にも対応し、日常の楽しみは大切に支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄時間・パターンの確認をし、気持ちよく排泄できるための支援をしている。排泄の自立している利用者には、排泄時刻の記入をすすめ、記入表を職員が確認でき、支援できる仕組みになっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には決めてあるが、利用者の希望を尊重し、申し出には柔軟に対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない利用者のためには、日中活動や、散歩をふやし、昼夜逆転にならないために工夫をしながら安眠、休息に対しては支援している。利用者によっては医師からの指示、連携を取っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活歴、趣味を大切に、日々の生活に張りや潤いが持てるよう、インフォーマルな資源を積極的に活用して笑顔や、満足感が得られる支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が買い物に外出するときを利用したり、散歩時に利用者にも買い物の機会を用意し、買い物の楽しみが味わえる支援をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人一人の心境、身体の状態を考慮しながら、なるべく多くの外出の機会を作ることを心がけている。日常の事業所の買い物でも利用者にも手伝うという感覚が持てる支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	折に触れ、外出の楽しみが持てる場所についての情報の収集を行い、七夕、夜景の美しい場所、クリスマスのイルミネーション見学など時刻も幅広く対応して支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の投函は職員や家族が代行し、本人自らの電話の受発信は常識的な時間の範囲内であれば、家族からの特別な申し出がない限り、自由にできるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問は夜間も深夜以外は気軽に訪問でき、夕食後のひと時を家族と供に過ごすことも可能で、土日祭日は特に家族ぐるみの訪問も見られる。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	考えられる危険、リスクに対し家族に説明し、同意を得て行っている。利用者によっては、車椅子からの立ち上がりによる転倒事故防止のための拘束を一時的に行うこともあるが、最小限にとどめる努力をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	考えられる危険、リスクに対し家族に説明し、同意を得て施錠している。外出の機会を多くすることで、外出への満足感を満たす努力をしている。施錠しないですむ方法は模索中である。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は個室に在室中も含め、プライバシーを保持しながら、昼間は声かけ、夜間は就寝中も安全確認のため定時の様子確認、気になる利用者には引継ぎで特に注意して安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に合わせ、物品の管理を行っている。他人の部屋への無断入室、物品の持ち出し防止のために、必要に応じ、居室の利用者が外出の折には、危険防止、物品の持ち出しによるトラブルの防止のため、施錠するなどの配慮をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを設置し、研修を実施し、事故防止に取り組んでいる。個室で一人である時、トイレ使用時はとっさの対応が不可能なため、体調不良者には特に職員間で注意しあっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルの設置と共に、年1回の職員研修が実施されている。常時、事故発生に対応できるよう日頃より職員間で対応方法が話し合われ、AEDの操作実習も消防職員より実施されている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	マニュアルが設置され、職員研修が行われている。消火訓練、避難訓練については地元の理解の下、消防署による訓練が実施されている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い、 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	職員は利用者一人ひとりの状態から、それぞれのリスクと、高齢者全体のリスクを周知し、管理者、看護師、主任等が家族からの情報収集、家族への説明をし、連携して対応策をとっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	マニュアルに基づき、体調の変化や異常は発見したものは直ちに必要なところへの連絡、情報の共有は、申し送り書の活用・口答での引継ぎをしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の管理の下、使用方法の理解と、間違いがないための一人ずつの服薬の内容、回数、時間等の確認がしやすい工夫と、記録がされ、症状の変化についても確認の努力をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の予防に取り組んで入るが、高齢者の身体に合わせた食事内容の提供に至っていない面もあり、身体事情から思うようにできない利用者については課題である。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	オーナーが歯科医のため、特に口腔内の清潔保持には力を入れている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者のために必要な栄養管理が確保されず、メニューの作成が課題となっている。水分の摂取量は3食後と中間は職員が確認できる仕組みになっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルの設置、職員の研修を行い、インフルエンザは職員全員と、利用者の中の希望者にも接種を行っている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルの設置、職員研修をし、食材は各階で管理。食器洗い洗浄機の活用で調理器具の洗いと乾燥には布巾の使用を最低限に抑えてる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の周囲は関係者の心遣いで花が絶えることは殆どない。前面道路の交通に配慮し、玄関前スペースにも余裕を持たせてある。玄関内は事務室と隣接し、来訪者と直接顔合わせができるため気軽に入ることができ、利用者もよく覗いて会話を楽しみにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、明るく、どこも清潔に保たれていて、職員の思いのこもった飾りや季節が感じられる工夫がされている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が食卓は気に入った自分の席を持ち、食後や、食事の準備の時は食事準備に参加しなくても、TV鑑賞や、自由に場所を選んでいられる空間がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個室内は、各家庭で用意することになっているため、自宅から思い思いに家族の写真や家具が持ち込まれて、利用者が安心できる環境になっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	本年の夏までは利用者一人一人の体調にあわせられるように、ユニット型を採用してきたが、利用者の誤操作が多く発生したため集中管理型に変更。職員がこまめに調整している。室内に施設特有のにおいには感じられない。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内には明るく、手すりつきの幅広く安全な、廊下があり、職員の目もよく行き届き、運動不足の解消・糖尿病の予防・歩行訓練・気分転換にと利用者が思い思いに歩ける環境にある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者への声かけを大切に考え、利用者の意思の確認、声掛けのタイミング、声のかけ方にも配慮し、利用者のプライドの保持を尊重しつつ、日中活動の参加への誘導など自立支援をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周囲、ベランダには季節の感じられる草花を植え、草花の選定にあたって、昔よく見られた懐かしい草花にするなどの配慮がされている		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員体制が厚く、熱意のある職員が多い為、全員とは言えないが入所後かなり周辺症状が改善されるご利用者があり、ご家族も目を見張る事がある。あきらめていたご家族にも笑顔が戻るなど嬉しい結果が得られ、それが又職員の喜びと意欲につながっている。未熟な所もあるがハート面では皆自信を持っている。

オーナーが歯科医のため特に口腔ケアは重点項目としている。

6月から毎週火曜日2F・3F合同でレクリエーションを楽しんでいる。

ご家族も参加して下さり、なごやかな時間を提供している。